

The 2 Chome Times 2022年8月号

NO1のプレミアムストリートをめざして

NO291号

2022年・8月・25日



発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス8月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com



フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>



2丁目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★センター街2丁目商店街振興組合 秋の研修旅行は 歴史の旅 対馬

三宮センター街2丁目商店街振興組合では、8月6日から8日まで「朝鮮通信使をたどる」をテーマに対馬への研修旅行を企画しました。国際都市神戸三宮は、歴史的にも外国、特に隣国の韓国とのつながりが密接であり、その中でも「朝鮮通信使」は、韓国との交流の象徴とも



万松院墓所階段前

いえます。朝鮮通信使については今まで勉強会を重ねてきましたが、今回は、ザ・ファーストのメンバーになられた韓国商工会議所の皆様も13名参加され大いに内容の充実した研修旅行となりました。私達が、最初に訪れたのは、北端の韓国展望所



韓国展望所

です。韓国まで49.5kmという距離は対馬と韓国との交流の身近さをより感じさせます。また近くにある秀吉の朝鮮出兵の際に連れて来られた朝鮮国王姫の墓所に献花して望郷の念を悼みました。二日目は、対馬藩の藩主宗家の墓所万松院

を訪れました。宗家は江戸時代、幕府の命を受けて朝鮮通信使の受け入れに尽力しました。宗家対馬藩は、石高の低い対馬にあって、朝鮮との交易で財を成しており、朝鮮と日本の国書を改ざんしてまでも朝鮮通信使の交流復活を成し遂げるなど、小藩といえども「したたかさ」も兼ね備えていました。また朝鮮通信使の交流を支えた儒学者・雨森芳洲のお墓にもお参りしました。滋賀、長浜出身の雨森芳洲は、対馬藩に赴任して朝鮮語を学び、朝鮮文化を理解し、対馬藩と共に朝鮮との交流を推進し、「朝鮮通信使の江戸行」に尽力しましたが、その際、交流には互いに相手を知り、理解することの大切さをその誠実な人柄で体現しました。朝鮮通信使の記録が、2017年10月にユネスコ「世界の記憶」に登録されたことを契機に昨年10月開館した朝鮮通信使歴史館や今年4月に開館した対馬博物館を見学して、さらに理解が深まりました。これからも街の研修旅行を通して学んでいきたいと感じました。

★映画 島守の塔 鑑賞記

長期の地上戦が決行された激戦地沖縄の摩文仁の丘。ここは軍事召集で沖縄及び南方で亡くなった方の慰



霊碑が立っています。この場所は、沖縄の心「命(ぬち)どう宝(命こそ宝)」と訴え消息を断った、当時の沖縄県知事・島田叡(兵庫県出身で兵庫高校卒)と沖縄県警察部長・荒井退造(栃木県出身)の終焉の地でもあります。摩文仁の丘の中央には、沖縄県職員の戦没者を慰霊する「島守(しまもり)の塔」があり、その



島守の塔

奥には、島田氏と荒井氏の連名の「終焉の地」の碑があります。隣には、栃木県の慰霊塔「栃木の塔」その背中合わせに兵庫県の慰霊塔「のじぎくの塔」が立っています。これらの3つの塔の配置は、「生きることの尊さ」を後世に伝えてほしいと、この地で生涯を閉じた島田氏と荒井氏の信念を継承し、3県の慰霊塔が寄り沿って立っています。この実話を題材にした萩原聖人、吉岡里帆主演の映画「島守の塔」を鑑賞してきました。アメリカ軍の上

陸を阻止しようとする日本軍とその戦いに巻き込まれた民間人の絶望感は筆舌に尽くしがたいものがあり、点在する洞窟で重症を負った日本兵や、その手当てをする女学生の姿は見るのも辛いですが、さらにショッキングなのは助かる可能性が低い重傷者を薬物により安楽死させていたことでした。そして今なら「降伏すればよいのに」と思えますが、当時は「生きて虜囚《リョシュウ》の辱め《ハズカシメ》を受けず」と徹底的に教え込まれたが故に、軍人・民間人問わずに自ら命を絶ったケースが後を絶ちませんでした。この映画の中にも琉球民謡や舞踏のシーンが出てきますが、その響きも踊りの様も映画を観る前とは違って感じられたのは私だけでは無かったと思います。この映画「島守の塔」は映画館によってはまだ上映されていますが、未定の事もあり、ご興味のある方は「島守の塔」でご検索下さい。

★神戸市立博物館 ～美の巨匠たち～ スコットランド国立美術館

周辺の壮大な自然環境と、起伏に富む重厚な街並みで「北のアテネ」とも称される古都・エディンバラ。



その中心に 1859 年に開館したスコットランド国立美術館は、現在では毎年 230 万人以上が訪れる、ヨーロッパでも屈指の規模を誇る美術館となっています。その収蔵品は、中世から現代にいたる西洋美術史をカバーしつつ、英国、特に地元スコットランドの芸術家たちの作品に関して唯一無二のコレクションを形成してきました。本展では、このスコットランドの誇る至宝の中から、ラファエロ、エル・グレコ、ベラスケス、レンブラント、ブーシェ、ルノワールなど、ルネサンス期から 19 世紀後半までの西洋絵画史を彩る巨匠たちの作品を展示し

ます。ヨーロッパの巨匠たちによる芸術に触発されて生まれた英国絵画、特に、レイバーン、グラントなど、スコットランド出身の画家達の珠玉の名品も多数出品。実際に入館しますと素晴らしい絵画ばかりですが、何しろ鑑賞者には物語を読み解く見識と深い教養が求められ、筆者のような者にはなかなか難しい作品も多いながら、案内役の女優、天海祐希さんの解説を聞きながら存分に楽しませて頂きました。個人的に印象的だったのはディエゴ・ベラスケスの「卵を料理する老婆」(写真)の写実で、このサイズでは分かりづらいの



ですが、ボトルを透かして見える男性の手のひらがここまで上手く描けるのかと驚いてしまいました。それと大好きなイギリスの画家、ターナーの「トンプリッジ、ソマー・ヒル」を鑑賞できたのも最高でした。どうぞ皆様、空調の効いた博物館で、しばしルネッサンスの香りが漂う絵画を鑑賞してみませんか！

9月25日まで開催！

<https://www.kobecitymuseum.jp>

神戸市立博物館 〒650-0034 神戸市中央区京町 24 番地 TEL : 078-391-0035 FAX : 078-392-7054

★編集後記

この八月は日本にとって終戦77年に当たります。映画「島守の塔」や「ウクライナの悲劇」などの歴史を学ぶたびに、戦争を起こしてしまう人間の愚かさに暗い気持ちになります。それが本質的に「人間の性」である以上、これからも戦争を避けては通れないのかもしれませんが。現に台湾訪問をしたペロシ下院議長等をめぐって中国の軍事力による威嚇が続きました。私達個人個人には大きな動きは出来ませんが、これからも手を抜かずウクライナの方達への長期にわたる支援策やいざという時のための献血活動への協力といった地道な活動を行っていくつもりです。嬉しい事に8月5日にファーストのメンバーでもある在日韓国商工会議所兵庫の趙珉一会長と金尚司事務局長が街創り協議会の久利会長を尋ねて来られて、ウクライナから避難されている皆様への支援として、「50万円・マスク1万枚・お食事券60部」を届けられました。皆様の心のこもったご支援には胸が熱くなります。心から感謝申し上げます。



美しい街 共に歩む ビルメンテナンス
つるかめ管財株式会社 078-371-3589

